

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091500357		
法人名	医療法人 静光園		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市上白川町1丁目246 (電話) 0944-53-4185		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年12月25日	評価確定日	平成22年2月10日

【情報提供票より】(平成21年12月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月14日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低 83 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人静光園白川病院・大野歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人静光園を母体とする「グループホームきらめき」は、小規模多機能ホームと認知症対応型通所介護事業所が併設されており、敷地内にある地域交流センターも含め、地域における福祉拠点としての役割を担っている。室内は和風の落ち着いた雰囲気を持ち、安心できる空間となるよう随所に工夫が見られ、それぞれの方々の心地よい居場所が確保されている。個々の役割を見出し、また趣味等を自由に楽しめるよう、個別性ある柔軟な支援が行われており、入居者の方々を中心とした暮らしの支援に努めている。地域との連携・交流については、母体法人・連携室が有効に機能しており、開設して2年目を迎えたばかりとは思えない広がりを見せる。自己評価では課題や目標が明確に示されており、今後の更なる充実が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全頁をコピーして職員に配布し、約1カ月かけて意見が集約され、管理者によってまとめられている。わからないこと・共通した思い・取り組みたい内容等が改めて認識でき、職員間でも意識付けができたと考える。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	入居者・家族・地域の方々・市職員・地域包括支援センター職員の参加にて開催されており、地域からは安全な散歩コースの紹介をしてもらったり、「きらめき」が地域の方々のお茶飲み場になるためにどう取り組んでいくか等、活発な意見交換が行なわれている。意見や助言は速やかに職員に報告し、共有している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	3ヶ月毎に家族会が開催されている。家族が意見を言い難いことを認識し、お互いに率直な意見交換ができるよう関係づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事(体育祭・文化祭・旅行等)や清掃活動等の案内を受け、入居者とともに積極的に参加している。またホーム行事への案内も行っており、相互交流が行なわれ、顔なじみの関係がある。小・中学校の訪問受け入れや、ボランティア(オカリナ・ウクレレの演奏等)の来訪も多い。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	設立時に職員全員で考えた理念として「安心 笑顔 思いやり 尊厳を大切に 和をもって地域と共に支えます」を掲げている。職員によって一つ一つ考えて出された思いを、全員でまとめ上げた言葉となる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	申し送り前に職員全員で理念を唱和している。同時に4つの思い「愛されること・褒められること・役に立つこと・必要とされること」も掲示しており、認知症の方の大切な思いを理解し、日々の支援に結び付けていけるよう取り組んでいる。入居者によって毛筆で書かれた理念や4つの思いは、ホールや事務所に掲示している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域行事(体育祭・文化祭・旅行等)や清掃活動等の案内を受け、入居者とともに積極的に参加している。またホーム行事への案内も行なっており、相互交流が行なわれている。小・中学校の訪問受け入れや、ボランティア(オカリナ・ウクレレの演奏等)の来訪も多い。		地域交流センターしらかわ便りを毎月発行し、自治会を通じて地域住民に届けている。地域との支え・支えられる関係づくりに取り組んでおり、様々な交流の機会を模索している。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	初めての外部評価となる。自己評価は全頁をコピーして職員に配布し、約1カ月かけて意見が集約され、管理者によってまとめられている。わからないこと・共通した思い・取り組みたい内容等が改めて認識でき、職員間でも意識付けができたと考え。「取り組みを期待したい内容」は職員の思いをそのまま記載することで、今後の取り組みに利用していく予定としている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	入居者・家族・地域の方々・市職員・地域包括支援センター職員の参加にて開催されており、地域からは安全な散歩コースの紹介をしてもらったり、「きらめき」が地域の方々のお茶飲み場になるためにどう取り組んでいくか等、活発な意見交換が行なわれている。意見や助言は速やかに職員に報告し、共有している。		開設して2年目を迎えたばかりであるが、地域住民・法人連携室のバックアップもあり、有意義な開催となっている。今後の更なる充実に向けて、参加メンバーの多様化等、新たな広がりにも期待したい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センター職員・あんしん介護相談員・市役所職員との連携が充実しており、気軽に立ち寄ってくれたり、文化祭に家族と共に参加してくれる等の交流がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、法人として研修を行っており、ホームとしても内部研修を行なっている。今後も継続して研修を重ね、職員全員の理解が深まるよう取り組む姿勢である。		学ぶ機会は確保されており、法人としての支援体制についても整備されている。権利擁護に関する制度について、職員全員の理解を深め、必要となった場合に活用に向けての支援が行えるよう、また家族や地域への情報発信が行えるよう、今後も継続して取り組んで欲しい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	グループホームきらめき便りを2カ月に1回発行している。家族会や来訪時の機会を貴重な時間と捉え、家族交流会もあり職員の異動等についても伝える機会となっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	3ヶ月毎に家族会が開催されている。家族が意見を言い難いことを認識し、お互いに率直な意見交換ができるよう関係づくりに努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	母体法人との連携を図りながら、異動が最小限となるよう取り組んでいる。入居者の方々へのダメージが最小限となるよう、情報の共有に努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての採用となり、年齢や性別を理由として対象から排除していない。人柄や思いやり、何よりも御年寄りが好きな方を求めている。資格取得希望者も多く、互いに切磋琢磨しながら、また法人として勤務調整等をサポートしている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎日の現場での態度等、その都度助言している。基本的な教育として今後も努力していくという姿勢が伝わる。法人全体として人権教育を行なっている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人での内部研修・新人研修・外部への研修参加等、充実した研修計画が作成されている。しらかわ交流センターを場所として利用しており各施設の職員との交流が図れることも職員の育成につながっている。勤務上参加できない場合には、伝達研修にて情報を共有している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	管理者は、認知症ケア研究会参加や充実したネットワークの中での交流や情報交換を行なう機会がある。今後は職員の交流参加の場をもうけていきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅訪問やホームの見学に来てもらい、入居者の方々とお茶を飲む時間を設ける等、少しずつ馴染めるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	「共に過ごす」ことを大切にしており、職員は日々の生活の中で、入居者の方々から教わる機会が多くある。「早く乾く洗濯物の干し方」や調理方法等、昔の知恵を学んでいる。福祉体験に来た中学生の感想文には、戦時中の事や昔の事をたくさん教わる事ができたと記載されており、大切な時間を共有している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用し、日々の関わりの中での会話や動作から、思いの把握に努め、モニタリングに反映させている。担当制を採用し、より深く関わりを持ちながら、職員間で「気づき」を共有している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	アセスメントは必要に応じて随時実施し、本人・家族の意向確認や、関係者間での意見交換を行ないながら、介護計画を作成している。サービス内容には個別性があり、具体的な記載がなされている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	現状の把握に努め、変化がある場合や必要に応じて、本人・家族・担当職員等との意見交換を行いながら、見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	充実した法人内の連携の中で、地域連携室や医療連携室が確実に機能を果たしており、社会参加や医療活用における柔軟な対応が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	ホームかかりつけ医による往診が2週間に1回あり、歯科医による往診も週に1回受けている。他科受診についても、柔軟な対応を行なっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化した場合における対応に関わる指針」を整備し、家族・主治医との話し合いを行なっている。開設して2年目を迎えたばかりであり、今後も家族・医師との連携を深めながら、終末期への体制作りに取り組む意向がある。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりのプライバシーを損なわない配慮は常に心がけ、対応等で気付いた事があればその都度注意し、理念に立ち返るよう指導している。記録等、個人情報には目に付かない場所で保管・管理を行なっている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	起床時間等は個々のペースにあわせている。集団的なレクリエーションはあえて企画せず、交流センターでの「よかばい体操」についても、参加は自由である。生活習慣やその日の希望・状況にあわせて、柔軟な支援が行われている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の方々の嗜好を把握しながら、買い物に同行したり、調理を共に行なったりすることで、それぞれの力を発揮し、食事を楽しめるよう取り組んでいる。職員と一緒に食事を摂り、和気藹々と会話が弾んでいた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週2・3回の入浴を基本とし、清潔の保持に配慮しながら、無理強いとしないよう支援している。日中は常時入浴準備を行い柔軟に対応しており、就寝前の入浴支援を検討中である。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道の先生をされていた方には「理念」や「4つの思い」などを書いて頂き廊下に掲示している。料理好きの方はいつも調理場に立たれており、楽しそうに過ごしている。今までの経験を十分に発揮できる様に場面を設定して、役割を楽しく果たせるように取り組んでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の方より散歩コースの提案を受け、日常的に散歩に出掛けている。毎日の食材の買い物や交流センターでの行事参加等、個別に柔軟な対応が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。ホームでの見守り体制の充実、地域の方々の協力体制により、鍵をかけないケアを行っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもと、基礎訓練・部分訓練・総合訓練を行い、夜間を想定した自主訓練も行なっている。地域への協力要請を、運営推進会議等において継続して働きかけていく方針としている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	冷蔵庫にある食材の中から職員が献立を考え、調理を行っている。献立は法人の管理栄養士に確認してもらい、栄養バランス等を助言してもらっている。水分は1日1500mlを目安としており、食事・水分摂取量を記録して確認を行っている。		

グループホーム きらめき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関は通所介護との共通空間となり、余裕あるスペースとなっている。中庭はウッドデッキがあり、日光浴や洗濯干しができる多機能な場所となっている。入居者の手による書道の作品や小学生よりプレゼントされたX'masリース等が飾られており、季節感を十分感じられる。台所もオープンキッチンとなり、入居者が一緒に調理しやすい環境の中、調理の際の匂いや音など、五感を刺激してくれる場所となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室入口は、和風の個別のデザインとなっている。自宅で使われていた筆筒やテーブル等、思い思いの品が置かれており、個人の部屋作りをされている。家族にも思い出の品を持ってきて欲しいと時折呼び掛けており、居室を自分の部屋として自由に利用してほしいと考えている事が伝わってくる。また職員の思い込みで環境づくりを行わないよう、本人の意思を尊重している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			